

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

楷書はがっちり書く  
安定よく  
注意  
下を短く  
とめる  
点のうち方注意  
上にはねる  
くつつかない

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

生活の墮落は  
精神の自由を殺す  
夏目漱石

おか だ りゅう ほう 書  
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

中心線  
書写体

悦	売	商
ぶ	り	法
様	て	は
に	悦	
す	び	
べ	買	
し	い	
	て	

おお たに せい じょう 書  
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★商法は：(書体Ⅱ行書)

二宮尊徳(二六七〜八五六)

『二宮翁夜話』より

私たちが生きるこの世界には天地・親子・夫婦・農業の四つの法則があるといっています。たとえば、親が損得抜きで子供を育てその成長を楽しみ、子は養育されて父母を養うように、それぞれが感応しあって成立するのです。商売の道も、売り手と買い手が共に喜ぶことが理想だと説いています。

◆1月課題予告(楷書)

吉凶は

糾へる繩の如し

「太平記」

★生活の：(書体Ⅱ楷書)

夏目漱石(一八七〜一九六)

小説『それから』より

生活の墮落とは、道徳的・社会的に非難されることだけでなく、怠惰な生活を送ることも含まれます。そういう生活の中に精神の向上が生まれるはずもありません。精神の自由を目指すためには、日々の生活の中の不断の努力が必要なのです。

◆1月課題予告(行書)

いかなる人の知識も

その人の経験を超え

超えるものではない

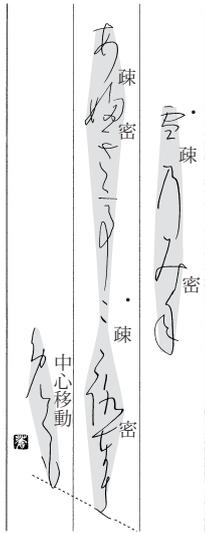
▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

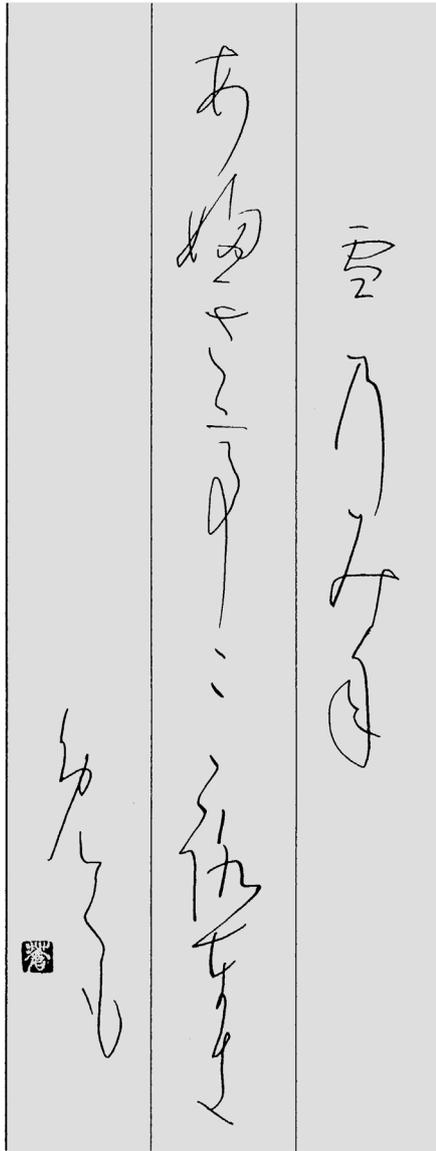
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



雪の嶺<sup>乃</sup>仰<sup>み</sup>ぎ<sup>な</sup>て<sup>あ</sup>心<sup>こ</sup>と<sup>こ</sup>き<sup>ろ</sup>め<sup>う</sup>く<sup>支</sup>も<sup>免</sup>

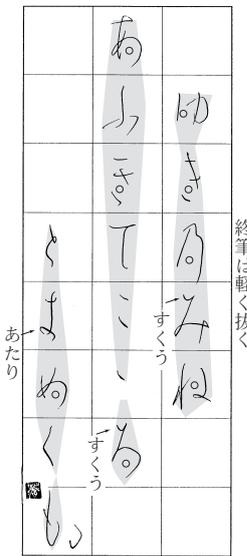


萩 田 蒼 仙 書

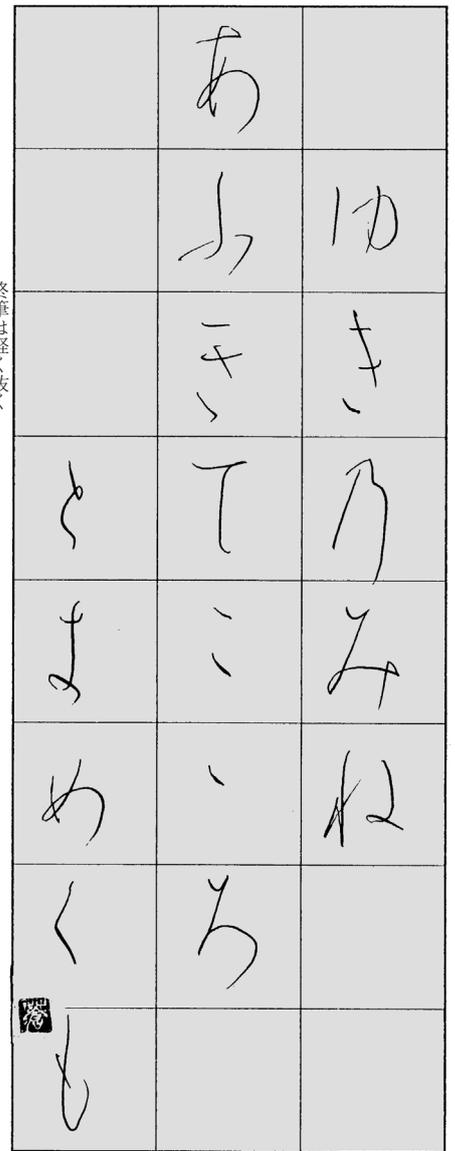
▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



雪の嶺<sup>ゆ</sup>仰<sup>き</sup>ぎ<sup>な</sup>て<sup>あ</sup>心<sup>こ</sup>と<sup>こ</sup>き<sup>ろ</sup>め<sup>う</sup>く<sup>支</sup>も<sup>免</sup>



萩 田 蒼 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

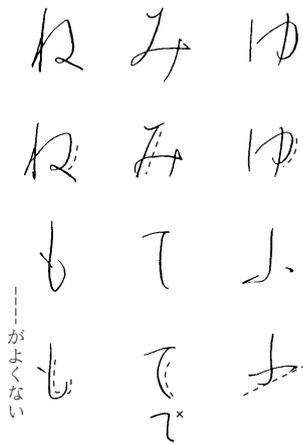
雪の嶺<sup>ゆ</sup>仰<sup>き</sup>ぎ<sup>な</sup>て<sup>あ</sup>心<sup>こ</sup>と<sup>こ</sup>き<sup>ろ</sup>め<sup>う</sup>く<sup>支</sup>も<sup>免</sup>

(圭岳)

〔句意〕雪の嶺を仰いで、将来への期待に感情がたかぶったとの意。青春の充実した日々にある者の心情であります。

〔級位ワン・ヒント〕

線の強弱は周囲への響きの度合に係します。線の練度の高い人の作は、小さく書いても余白に負けることなく調和しているのです。いくら多く書いても同じ事のくり返して無駄だと考える方もありますが、多く書くことは線の練度を高める為の必要条件です。太細、遅速の変化を意識して多く書いて下さい。



-----がよくない

〔段位ワン・ヒント〕

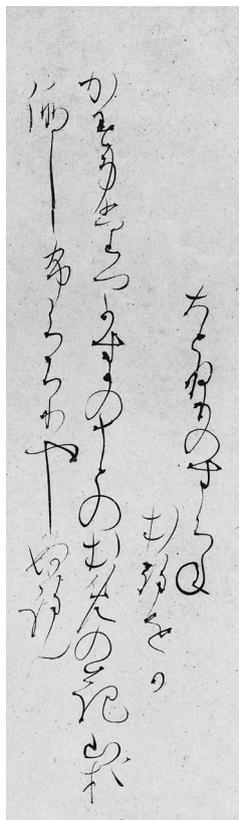
軽く大きく動く細い線、大小の変化、縦への流れ、横への動き等にご留意。形はリズムによって出来ると思ってください。基本の小字練習を怠ると、中字大字では形が崩れて俗悪な作になりますので要注意。かなの独学はむずかしいので、研修会等でかな専門の先生の教えを乞うて下さい。

◆1月課題予告

静か<sup>し</sup>さや<sup>し</sup>や<sup>わ</sup>え<sup>た</sup>渡<sup>わ</sup>り<sup>た</sup>来<sup>く</sup>る<sup>は</sup>羽<sup>ね</sup>子<sup>お</sup>の<sup>と</sup>音

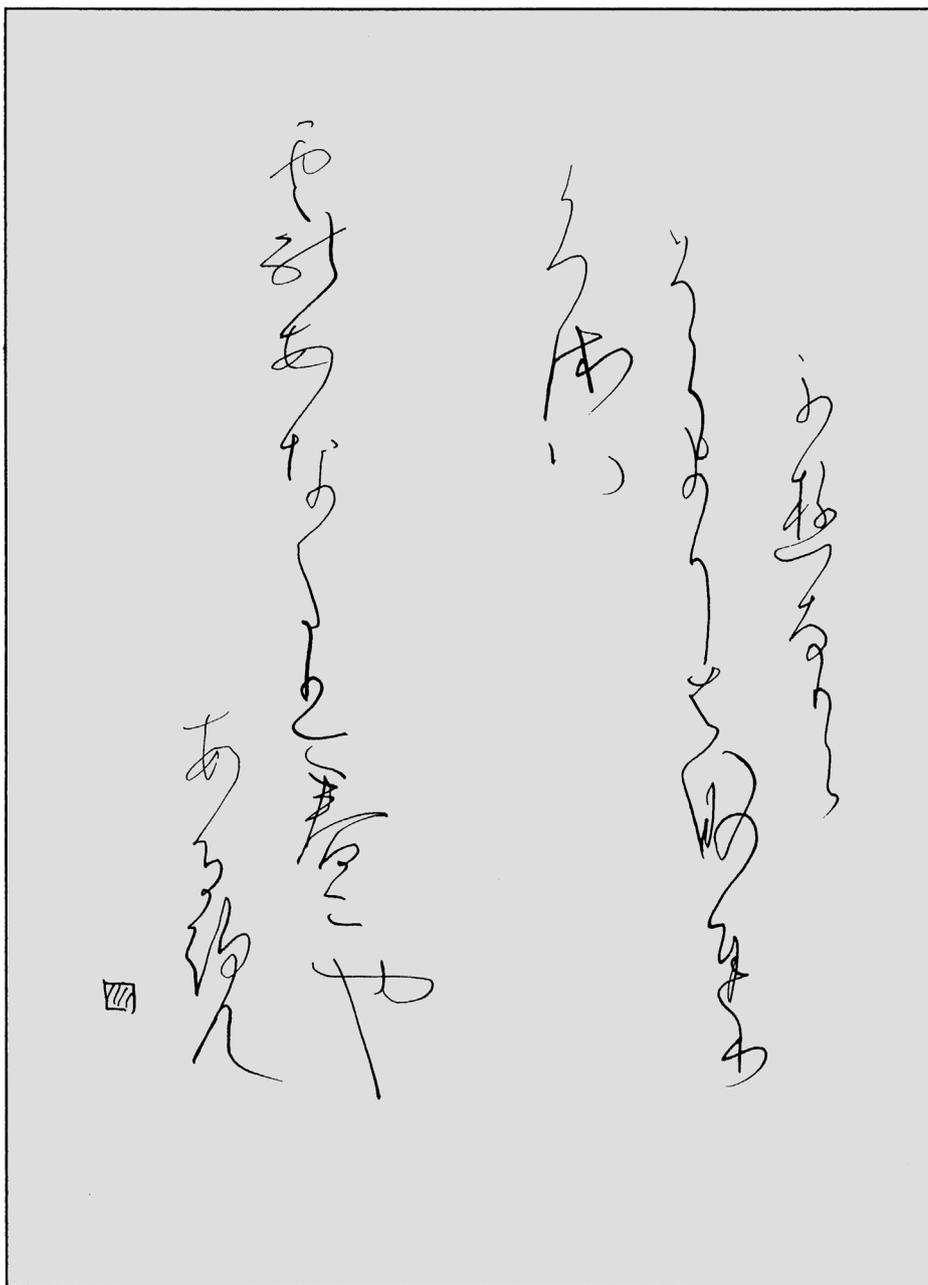
(鬼城)

〔古筆参考〕



香紙切

大とねりのすく  
 利年  
 春身堂可  
 かすみたつかすがのさとのむめの花山お  
 路布た利可  
 ろしふくちりやしぬ覽  
 むねをか  
 免か



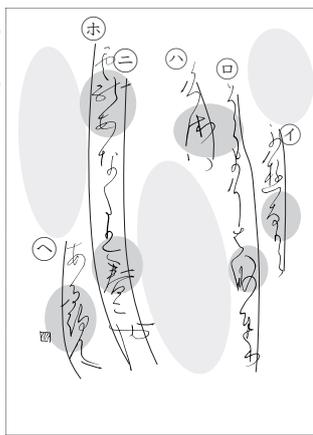
締切り 十二月二十日(必着)

築瀬舟香書

冬ながら空より花の散り来るは  
 雲のあなたは春にやあるらむ  
 清原深養父

〔歌意〕冬だと云うのに、空から花が降ってくる。雲の向こうは春なのだろうか。

〔出典〕古今和歌集(新潮日本古典集成)  
 〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、②と③、②と④、②と⑤、③と④、③と⑤、④と⑤、⑤と⑥
- ①、それぞれ呼応。
- 墨の動き。
- 余白注意。
- 注意、行間に向かっている。
- 上掲図版の「覽」を使いました。

複合体とは

いよいよ最終回となりました。表題の複合体について述べて終わりとします。複合体とは二字・三字を寄せて一つの塊を作るテクニックです。漢字の場合は一文字で既に密になり易いのですが、「かな」の場合は単体では塊になりにくいのです。そこで二文字三文字を寄せて書くのです。今月の手本の中の複合体は「者那の」です。よいお年を！

◆1月課題予告

けふもまたこころの鉦をうち鳴し  
 うち鳴しつつかくがれて行く

(若山牧水)

締切り 十二月二十日(必着)

平成二十一年  
元旦

寿

新しい年が  
平和であります  
ように  
祈念

申しあげます  
竹野 さ、代

「寿」は割着使用

謹賀新年

健康を第一として  
益々のご活躍と  
お祈り申しあげます

平成二十一年元旦

松野 みどり

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイデアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな年賀状をお待ちしています。
- ◆ 五十三ページの憲照先生のお手本も参考にして下さい。

〔読み〕

謹賀新年  
健康を第一として  
益々のご活躍を  
お祈り申しあげます  
平成二十一年元旦(氏名)

新しい年が  
平和であります  
ように  
祈念  
申しあげます  
平成二十一年  
元旦 (氏名)

横書き課題

お か じ ま け い せ ん  
岡 嶋 桂 川 書

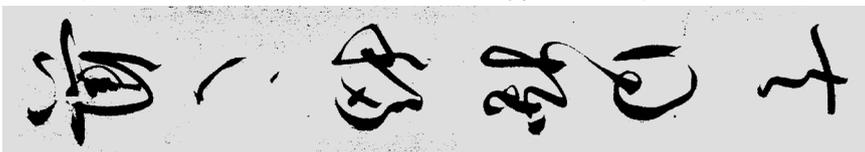
室町幕府第三代将軍足利義満は、  
北山に別荘として金閣を建てた。

長野県安曇野市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 12月20日 (必着)



準初段から師範まで

奥村暢之臨  
おくむら のぶゆき



新入から1級まで (行書)

澤静雨書  
さわしずゆ

【出典】書譜 (687) 【筆者】孫過庭 (648?~703?)

【読み】夫は、推移の奥(讀を)得んとす。

【読み】冬来りて幽興長し

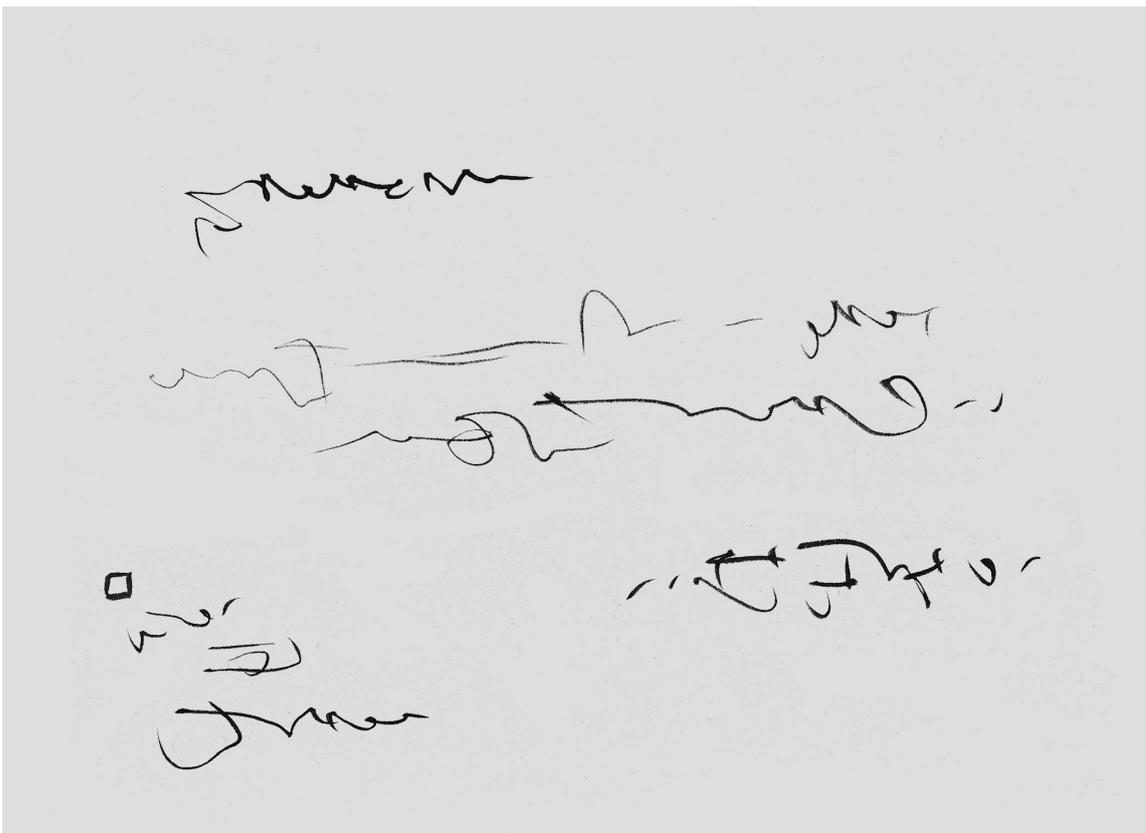
【大意】冬になると殊に物静かなる興趣が深い。

# 一般部毛筆かな課題

締切り 12月20日 (必着)

※検定試験三段ノ教範コースを兼ねる。

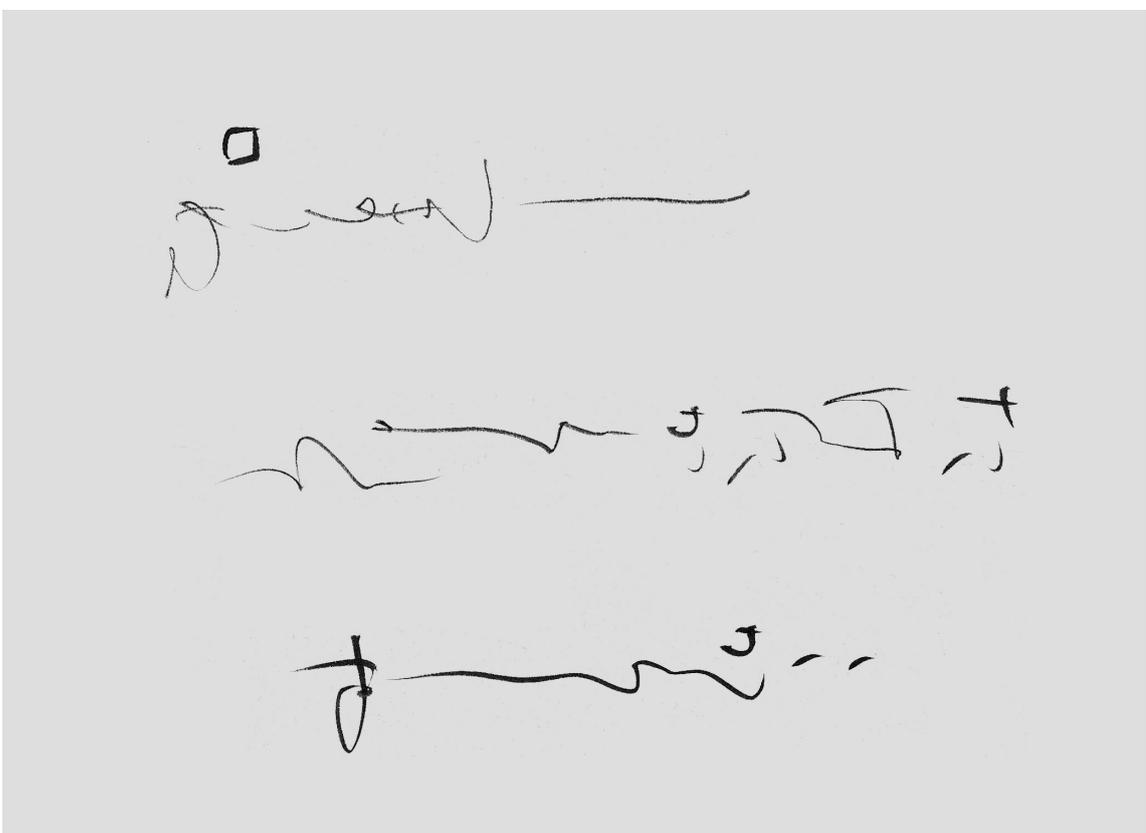
風 ぞ 木 の 葉 の 晴 れ 行 く 夜 な 夜 な に  
 風 佐 三 木 葉 晴 行 夜 夜 耳  
 の 限 な き 庭 の 月 影  
 の 能 分 起 始 可 界 可 界 可 界



準初段から師範まで

※検定試験一級コースを兼ねる。

木 枯 や た け に か く れ て し ゅ ま り ぬ  
 木 枯 竹 林



新入から一級まで

浅井 機山 先生書  
 浅 井 機 山 先 生 書

〔出典〕 新古今和歌集 式子内親王

〔歌意〕 風が寒いので、木の葉が吹き散らされて明るくなつてゆく。夜ごと夜ごとに、今ではもう隈々まで、あますところなく照らし出している、庭の月の光であるよ。

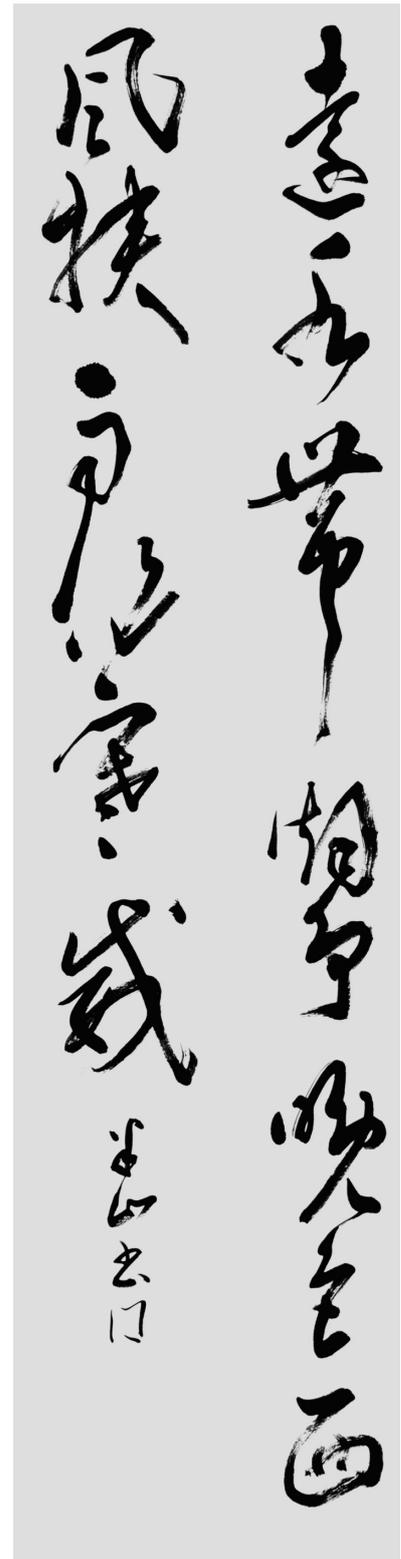
〔出典〕 松尾芭蕉

〔句意〕 今まで吹きあれていた木枯が竹林に吹き入ると、竹にかくれたようにひっそりと静まったことだ。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 十二月二十日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)



新井清泉書

〔大意〕 烟を帯びた遠方の水は急に夕景を催し、雨を送り来る西風は寒気を逞しくするのである。  
 初出品の方へ  
 支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

十数年ぶりの日本での個展開催  
 おめでとう 帰国を心待ちにして  
 いままたよ長いパリ生活の話も  
 皆とても楽しみにしています

山内 忍

半紙 (334mm×240mm)

書 兆 春 宮 大

〔条幅解説〕 創作への展開 角川書道字典から抜粋しました。お手本通りでなく、字典を参考に様々なくずし方を取り入れ、創作作品を作りましょう。



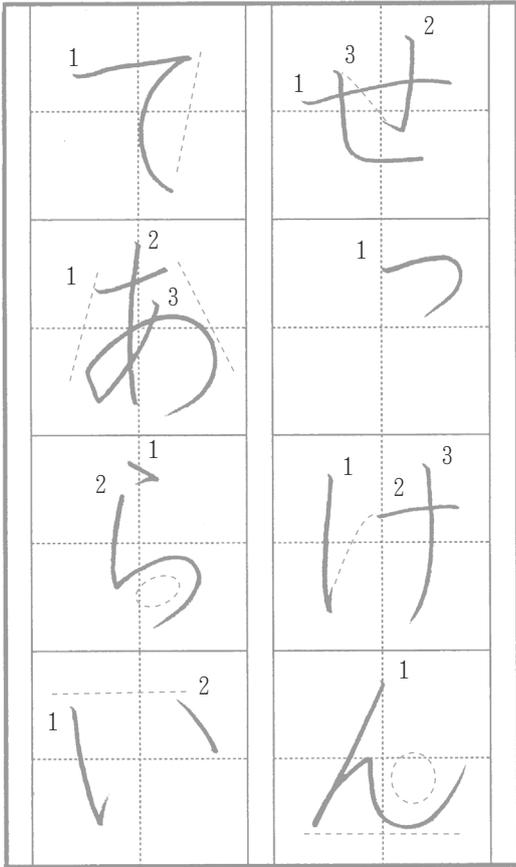
十数年ぶりの日本での個展開催  
 おめでとう 帰国(國)を心待ちに  
 していましたよ 長いパリ生活の話も  
 皆とても楽しみにしています  
 (ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

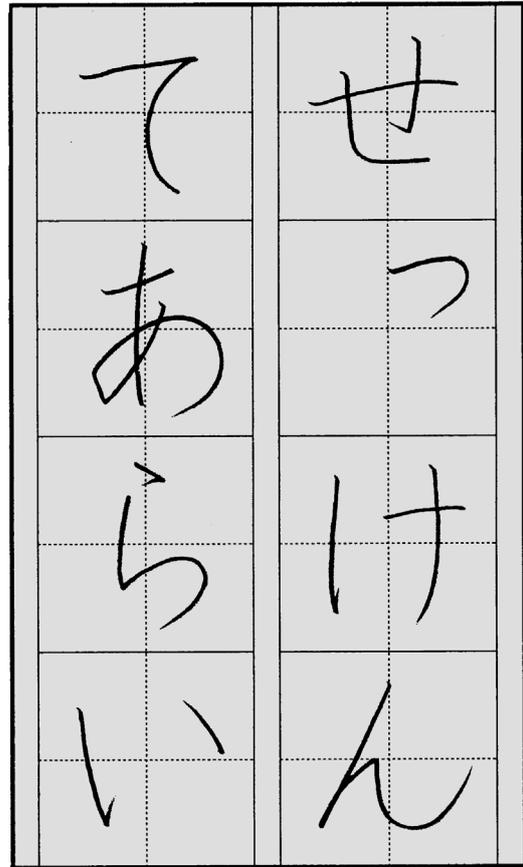
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)



◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。  
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



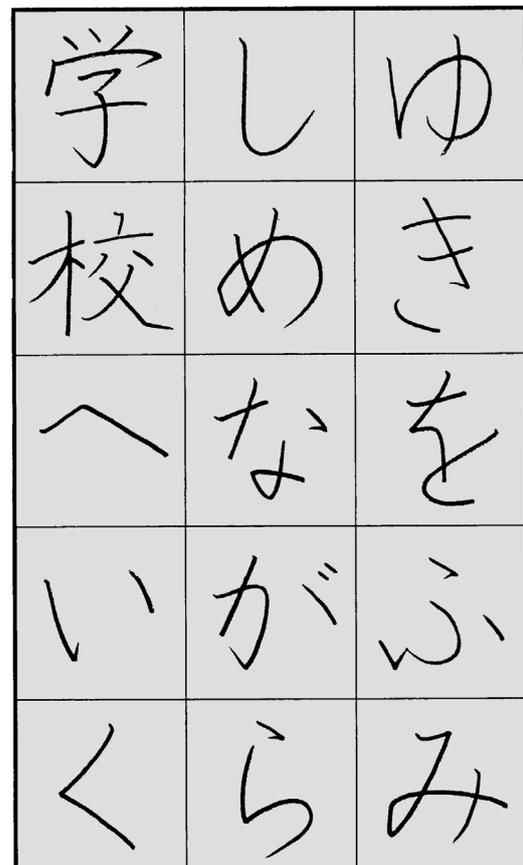
よ  
う  
年

小三年まで  
三宅容玉書



新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小  
一  
年

準初段以上

〈ようびく〉自由(黒色にかざる)

て	百
交	円
番	も
へ	っ

新入 1級

っ	た	弟
て	百	が
交	円	ひ
番	を	ろ
へ	も	っ

準初段以上

小二年

準初段以上

家	わ
で	り
勉	算
強	を

新入 1級

く	算	苦
さ	を	手
ん	家	な
勉	で	わ
強	た	り

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

湖	氷
こ	点
お	下
る	で

湖 (みづうみ) ヒヨウ  
氷 (ヒヨウ) テン  
点 (テン) カ  
下 (カ) テン  
で (で)

新入1級

が	で	朝
こ	湖	は
お	の	氷
る	表	点
よ	面	下

小四年

準初段以上

駅	正
前	月
商	準
店	備

駅 (えき) ショウ  
正 (ショウ) ガツ  
前 (まえ) ジュン  
月 (ガツ) ビ  
商 (シヨウ) テン  
店 (テン)

解説(よく見て習いましょう)

駅	で	正
前	に	月
商	ぎ	の
店	わ	準
街	う	備

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

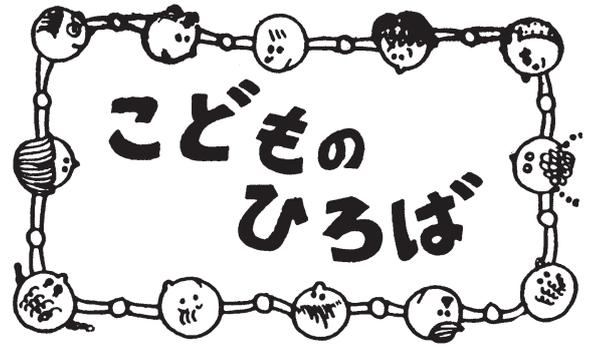
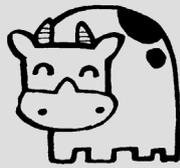
小四以上 尾郷翠光書



▼小三年以下の課題 い飯 ぬま じゅん こう 飯 沼 順 光 書

一	月	遊	今	お	明				
一	日	ぼ	年	め	け				
		う	も	で	ま				
		ね	楽	と	し				
			し	う	て				
			く						
名									
前									

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 12月20日(必着)

習っていない漢字は、  
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 おお つぼ み き 大 坪 美 紀 書

	元								賀
		い	健	ご					
	旦	た	康	家					春
		し	を	族					
	氏	ま	お	皆					
		す	祈	様					
			り	の					
	名								

◎お手本はつけペン使用



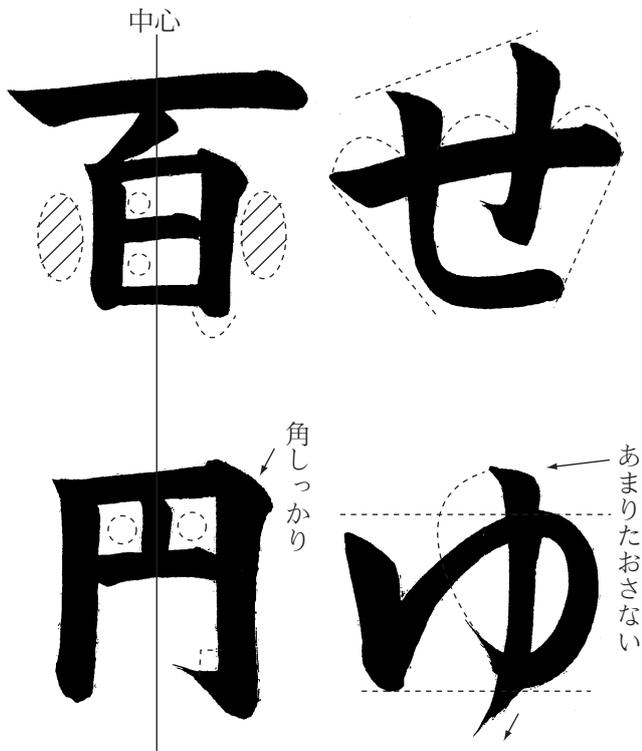
- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
  - 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
  - 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
  - 一、低学年は四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
  - 一、成績は評価により毎月変わります。
  - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

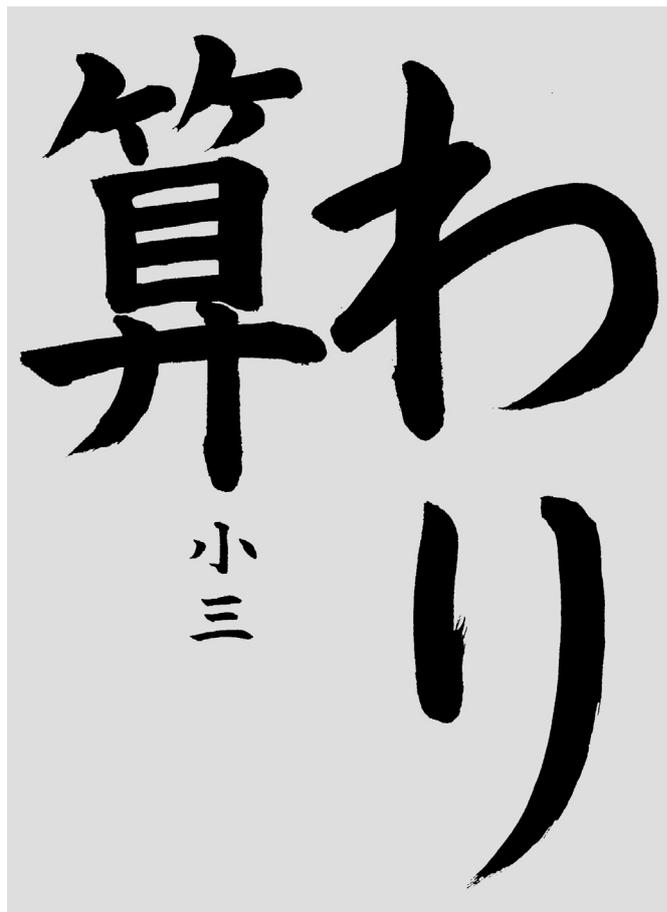
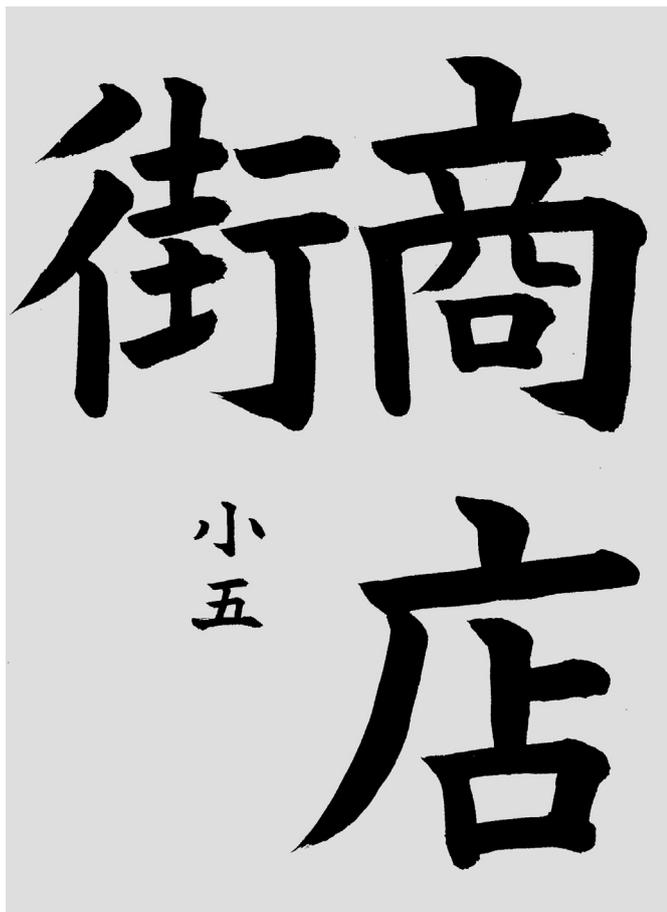




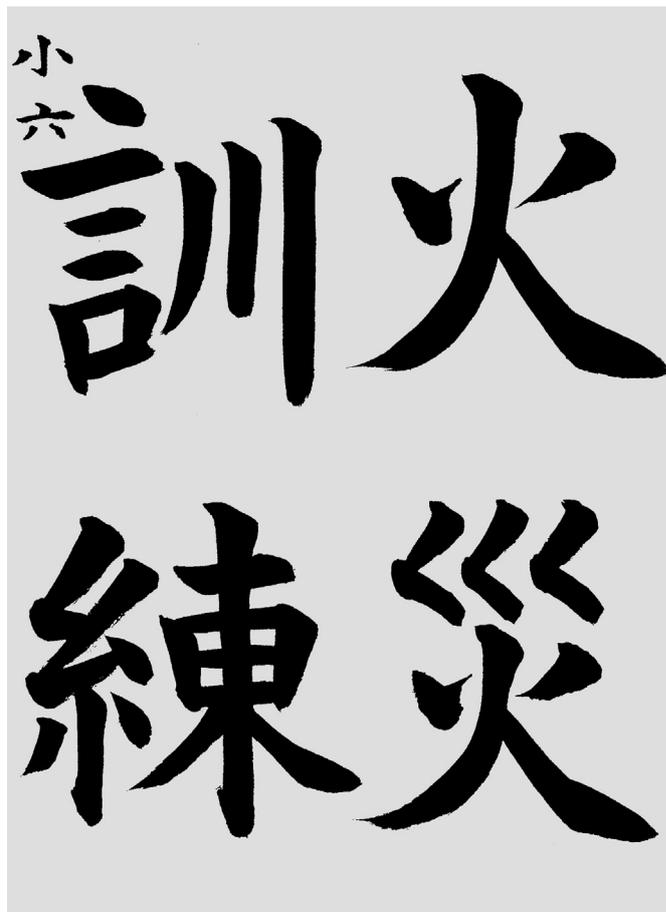
幼年く小二年

玉樹たまき  
小華書しょうか



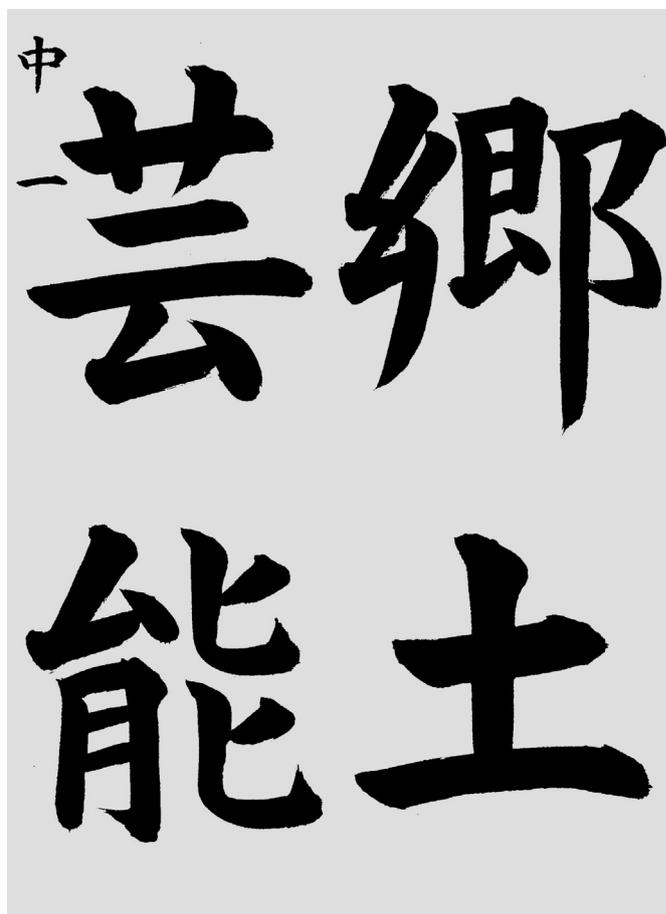
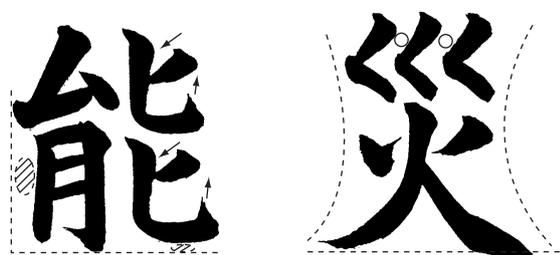


小三、小五年  
水野香竹書



小六・中二・三年

奥村暢之書



# 第55回 毛筆検定試験受験要項

12月20日締切り

## ■ 受験にあたってご注意

▼ 検定受験者は、十二月のすべての毛筆月例競書をお休み下さい。(短期特別課題は出品可)

▼ 一覧表の最高昇段級位というのは、各コースで取得できる最高の段、級位を示したものです。現在この段級位にある人は、それ以上のコースを受験して下さい。

## ■ 出品方法

▼ 作品は、必ず一覧表に明示した順序にそろえ、右肩をホッチキスでとじて下さい。

ただし教範コースは、上から、①漢字②かな③細字④教育部手本課題⑤条幅⑥書歴(初回のみ。詳細は本部へ問合せ)の順にそろえ、ゼムクリップでとじて下さい。

▼ 検定作品と月例作品を同封する場合は、必ず、二つのビニール袋に入れ、表に「検定」「月例」と明記して混同しないようにお願いします。

▼ 支局・支部には「検定作品出品明細書」を一月号配本時に同封しますから、所要事項記入の上、作品、受験料と同送して下さい。さらに、正確を期す上から受験者名簿を添付して下さい。

▼ 封筒に「検定受験」と朱書して下さい。

▼ 受験料は、為替か小為替で作品と同封するか、現金書留による送金に限ります。(振替、その他は不可)

● 締切 平成二十年十二月二十日(本部必着)

● 送り先 大書心会検定試験係

● 発表 平成二十一年三月号

▼ 肉筆手本希望者は、毎月裏表紙掲載の毛筆担当の先生へ、現金書留(返信用封筒同封)でお申込み下さい。

(左記料金は、一点についての金額です。ただし、コピー手本・添削料は半額といたします)

※条幅の原寸大のコピー手本はありません。

一般部1級・三段コース

漢字半紙……一、〇〇〇円  
細字・かな……一、五〇〇円

漢字半紙……一、二〇〇円  
細字半紙……一、五〇〇円

条幅……三、五〇〇円  
細字……一、七〇〇円

五段コース以上  
会友コース  
細字……一、七〇〇円  
教育部……八〇〇円

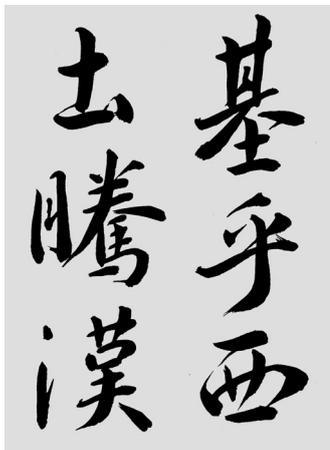
活字課題  
五段コース以上  
会友コース

## ◆ 一般部1級・三段コース

コース	課題	最高昇段級位	課題	漢字		かな	細字	計	受験料
				楷書	行書				
一般部	1級コース	1級まで	漢字は下掲課題 かなは月例級位課題	1	1	1		3	1、500
	三段コース	三段まで	漢字は下掲、かな・ 細字は月例段位課題	1	1	1	1	4	2、000

〔三段コース漢字課題〕

《集字聖教序》



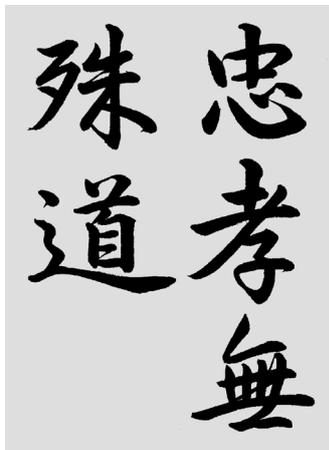
神谷葵水先生臨

《孔子廟堂碑》



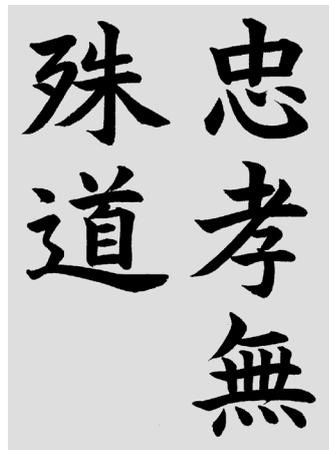
〔1級コース漢字課題〕

《行書》



澤 静 雨 書

《楷書》



コース	課題	受験資格	最高昇段位	課題	漢字			かな	細字	条幅	教育部 手本	計	受験料
					楷書	行書	草書						
一般部	五段コース	有段者 支局・支部長	五段まで	下記(活字)	1	1	1	1	1	—	—	5	2,500
	書範コース	有段者 支局・支部長	書範まで	下記(活字)	1	1	1	1	1	1	—	6	3,000
	教範コース	書範 支局・支部長	教範	下記(活字)	1	1	1	1	1	1	2	8	4,000
教育部	普通コース	—	12月しめきりの月例競書課題									1	400
	会友コース	四段以上の中学生 準会友の小学生	12月しめきりの月例競書課題と下記活字課題(行書)									2	700

◎師範試験は、毎年2月に単独で実施しています。(P23参照)



▼書譜

墨味鍾張之餘



▼集字聖教序

庸鄙投其旨趣



▼孔子廟堂碑

危遜從時義存

図版で示した三つの法帖の各六文字を、それぞれ半紙に臨書して下さい。

漢字

五段コース以上共通(半紙)

五段・書範・教範コース課題

- 五段・書範・教範コース受験のきまり
- 一、五段・書範・教範コース受験は、上掲一覧表のとおり受験有資格者に限ります。
  - 一、教範コースは単位合格が認められますが、単位を取得されても、受験の際は改めて全科目を提出して下さい。ただし、合格科目については、審査の対象から除きます。
  - 一、単位合格は、二年以上検定試験を受験しないと無効になります。



(行書)

▼会友コース課題

- 十二月締切りの自分の学年の月例課題一枚
- 上の語句の行書一枚
- 計二枚を一組とし、右肩をとじて出品のこと。

※氏名は、各学年に合わせてお書き下さい。  
(小1年はひらがなで書くなど)

小 1 みそ

小 6 大会

教育部手本課題

教範コースのみ(半紙)

過日引越しの際にはご親切にお手伝いいただき大助かりでした  
やまと整理も一段落しましたので  
ご夫妻でどうぞお出かけ下さい  
(ご自分の名前)

細字

五段コース以上共通(半紙)

次の語句を、行書または行草体で体裁よく書いてください。

疎風影動 林梢月  
宿雨涼生 檻外山

次を、画仙紙半切に体裁よく書いて下さい。

条幅

書範・教範コース共通(画仙紙半切)

かな 三段コース以上共通(かな用半紙)

次の和歌を、かな半紙にちらし書きにして下さい。  
◎風さむみ木の葉晴れ行く夜な夜なに  
のこる隈なき庭の月影  
(式子内親王) ※P8参照